



目と身体と脳をつなぐ

ビジョントレーニング

【第8回】 事例②発達の遅れを一步一步、取り戻す

一般社団法人 日本ビジョントレーニング普及協会理事 横田幹雄

**やっぱり目を
きちんと使えていない!**

今回は2例目。発達に遅れが見られた女の子が、当会のビジョントレーニングによってどのように課題を克服していったか、その成長ぶりを紹介します。

B子ちゃんの事例

○就学前検診において、発達障害の傾向が見られた。

○言葉の発音がはっきりしていない。よく転び、力加減が調整できない。学習面では、集中力がなく、記憶力も弱い。計算や図形把握が苦手で、字もうまく書けない。

○先生や友達の名前が覚えられない。忘れ物も多い。

私たちはまず、いつものように目がどのくらい使えているのかチェックすることから始めましたが、指標を動かしながら目で追わせると、すぐに視線を外してしまいます。声かけをして視線を戻させても、周囲の音などに反応してしまい、集中が続

きません。また、左右に視点を切り替える跳躍の眼球運動では、指示した方向や指示した色をリズムに合わせて見ていくことができず、必死にやろうとすると無性に眠くなるなど、意識が途切れてしまうようでした。

運動機能や身体の使い方のチェックでは、視覚、前庭覚、固有受容覚に未発達の部分が多く、原始反射（幼児特有の反射行動、前頭葉の発達とともに失われていくもの）も、多く残存していることがわかりました。

B子ちゃんに重点的に行ったトレーニングは以下の二つです。
①しっかりと物を見ることで、目の使い方のコツをつかむ。
②集中力を養い、体幹を整える。

①の眼球運動トレーニングは、毎日5分でもいいので、継続することでお効果が得られます。そのためには、保護者の協力も必要。案の定、B子ちゃんは嫌がったのですが、「ビジョンの先生にどれだけ上手にできるようになったか見せに来て！」とエールを送り、スタジオに来るたびに

褒めてあげました。すると、自然と本人から意欲的に取り組むようになってくれました。

そうなるのとシメたもの。トレーニング開始から3カ月後には、見違えるほどスムーズに目が動くようになったのです。お母さんのお話では、この頃から学校で勉強に集中できるようになりました。友達といっしょに遊ぶようになったようです。

**足をクロスしても
歩けるようになった**

B子ちゃんの場合、やはり気になるのは、よく転ぶバランス感覚の悪さ。上記②の体幹トレーニングにも、じっくりと取り組ませることにしました。

最初に行ったのは、仰向けに寝かせ、目を閉じた状態で2〜3分かけて1から100まで数えさせるといふもの。B子ちゃんは当初、数を飛ばしたり、49から40に戻ったりし、数列の概念が整っていませんでした。それをいちいち指摘することなく、本人の意志で100まで数える



テープを使った歩きのトレーニング

までサポートしました。次第に間違いが少なくなり、しばらくすると、一気に100まで言えるようになりました。

次に取り組んだのは、体の使い方や力加減をコントロールする「固有受容覚」と、平衡感覚に關係する「前庭覚」のトレーニング。幅10センチ、長さ5メートル程度のテープを床に貼り、その上をつま先と踵を付けながらゆっくり歩かせました。

最初はすぐに転ぶことが多かったのですが、「できなくても大丈夫。大人がやっても難しいんだからね」などと声がけし、「次はどこまで歩けるか挑戦!」というふう遊び感覚で何度も何度もチャレンジさせました。次第には進めるようになったので、少し負荷をかける意

味で後方へ歩かせたり、テープを真ん中に足をクロスさせながら歩かせたりしました。

前方へ進むのは難なくクリアできるようなったのですが、後方へととなると一歩目から足が動かず、その場で足踏み状態になってしまいます。

私たちは普段、子どもの動きをじかに補助することはないのですが、このときだけは私が足に手を添えて、一歩一歩、着実に足の動きを覚えさせました。

こうすることで、自らのボディイメージを持てるようになり、少しずつでも自分で足を動かすことができるようになります。そして、ある瞬間、コツを得たのか、自分の意志で後方へのクロス歩きができるようになりました。そのときの彼女の喜びにあふれた笑顔は、今でも忘れることができせん。



図形をしっかり把握する「視空間認知」もアップ

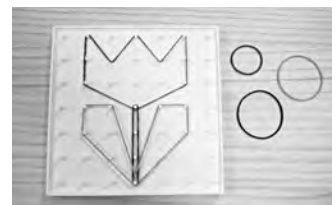
ほかにも様々なトレーニングを行いました。その中で最後

に紹介するのが「ジオボード」です。

これは、正方形のプラスチックの板に等間隔にピンが立っていて、そのピンにゴムを引っかけて図形を作ったり、文字を作ったりするもの。B子ちゃんには、

まずトレーナーが見本を作り、それと同じものを作らせることを繰り返しました。

図形や文字の認識が苦手で、先生や友達の名前も覚えられない(顔が覚えられない)ことから、「視空間認知」が弱いのではないかと推測し、このジオボードによって、まさに図形のイ

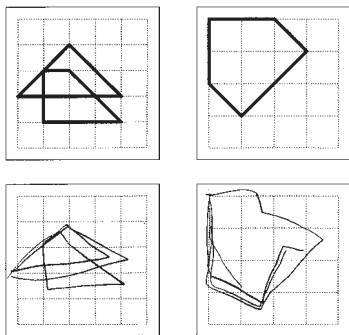


ジオボード

メージを把握する力、見たものを空間的に把握する力を伸ばしてもらおうと考えました。その結果が左の図のビフォア&アフターです。6カ月目の成果でした。

B子ちゃんは今、小学4年生。現在も元気にトレーニングを続けています。当初はマンツーマンでしたが、今はグループトレーニング。仲間と協調ながら、皆と同じメニューをこなしています。保護者によると、運動能力が向上するとともに、学校での成績もぐんぐん伸びているそうです。

図形把握のビフォア



アフター (6カ月後)

